

179

こんにちは。塾長の大井です。

3期生受験戦記も今回(第43回)が最終回・後編です。

苦すぎる敗戦から一夜明けた2月6日。

この日は新小6(今月入試を終えた4期生です)の初回授業の日でした。

私が新小6の激励会をしようと呼びかけると、3人は参加を快諾してくれました。

新小6生たちは、先輩たちがどんな話をするんだろうと、普段と違うイベントの空気に好奇の眼差しを向けていました。

3人は黒板に自分の名前と進学先を書きます。

Mくんは初めて書く開成中という名前に実感を新たにしたのでしょう。自然と笑みがこぼれていました。

しかし、AさんとUさんの2人は、気持ちはまだ終わっていなかったようだったので、

「A、U。まだ納得できてないなら中学名は書かなくてもいいよ。」

と言いました。2人ともうなずいて、自分の名前だけを書きました。

そして、驚きの会が始まりました。

まず口火を切ったのはUさんでした。彼女はまるで人が変わったように口角泡を飛ばす勢いで力説しました。

「みなさん、入試では本当にごまかしが利きません！

1問の重みを考えて、1点を大切に、答案に自分の全てを出し切ってください！

出し切らずに終わってしまう、こんなに悔しくもったいない受験はありません！！」

驚きました。

そこには、つい数日前までの、自信のないUさんの面影はどこにもありませんでした。自身の生々しい痛みをさらけ出しても、後輩の後押しをしたい。そんな想いが雄弁に溢れていました。

「絶対に悔いのない受験をして下さい！」

次に念願の開成中に合格したMくんは、自分が逃げつづけた逃避の日々と、そして学ぶことと向き合えた時間について話しました。

「逃げてる時は楽しくなんかなかった。向き合った時はちっとも苦しくなんかなかった。それはやった人には必ず分かります。」

そして、最後にこう結びました。

「僕が受験で得た一番大きなものは、愛することの大切さです。愛すれば必ず届きます。」

私は耳を疑いました。

(あのMがこんなことを語る日が来るなんて・・・。)

「愛せ。もっと愛せ。」

それは私が何度も彼に語って聞かせた言葉でした。

その言葉で彼と向き合った日々が蘇り、改めて彼と共にしたものの大きさを噛みしめました。

彼は本当の意味で勝ち、そして大きくなったんだと思います。

最後は、誰もがその努力を知る A さんです。

「恥を忍んで言えば、私は雙葉という舞台に舞い上がってたんだと思います。だから、合格予告のようなことをしてしまいました。あんなのは間違っていました。」

私は確かに努力してきました。でも、それはあくまでも前提でした。

いくらやって来ても、私には覚悟が足りなかったんだと今なら分かります。」

そこでAさんは一息つきました。

「私は雙葉も、豊島岡も、ただの模試のような受け方をしていました。

それに気づいたのは、2日の豊島岡の合格発表の時です。

TOPで初めて先生たちと一緒に結果を見たんですが、先生たちは本当に心の底から私の不合格を悔しがってくれました。

その姿を見た時、私はもうこんな『自分だけの受験』はやめなければいけない。強くそう思いました。」

4期生たちは固唾をのんで聞き入っています。

「だから大妻で受かってても全く油断せずに、浦明の時は、先生や両親に恩返ししたい恩返ししたい、そればかりを考えてやってきました。

だから私の浦明の答えは私の全てを出せたと思っています。

みなさんも、覚悟を持って最幸の受験をして下さい！」

4期生たちは何か打たれたように万雷の拍手を送りました。

それは掛け値なしにすばらしい演説でした。

(もうこの子たちは勝者だ。何中に行くことになっても。)

私も拍手をしながら、込み上げる熱いものを抑えられませんでした。

2日後、2月8日。

TOP生に浦和明の星から繰り上げで合格証書が届きました。

しかも同じ日に2通。

絶対に2人で同じ学校に行きたい。

AさんとUさんの想いは、最後の最後に届いたのです。

(完)

2018年2月26日

大井雄之

<あとがきに代えて>

全43回と長きにわたった3期生受験戦記も今回で完結しました。

長い間、読んで下さった皆様に心から感謝いたします。

ここに全てを込めたのであとがきを語ることは蛇足にしかならない
気がします。

だから代わりに、AさんとUさんの合格した浦和明の星中の校訓を、
結びに代えさせていただきます。

「Be your best and truest self.」

(最善のあなたでありなさい。そして、最も真実なあなたでありなさい。)